

世田谷区立代田小学校  
校長 篠原 和也 様

世田谷区立代田小学校  
学校関係者評価委員会  
委員長 黒田 高史

### 令和5年度 学校関係者評価報告書

令和5年度世田谷区立代田小学校関係者評価結果について下記のとおり報告します。

#### 1. アンケート実施状況(期間:2023/10/17~10/31)

対象者	回答数	配布数	R5 回答率(%)	R4 回答率(%)
児童(5,6年生)	95	100	95.0	90
保護者	243	311	78.1	48
地域	23	44	52.2	24

#### 2. 結果分析

肯定的な評価(A:とても思う、B:思う)の割合が8割程度を目標達成の判断目安とし、協議した。肯定的な回答がやや低い項目(8割以下)であっても、実態と学校の取組状況を総合的に判断した。

##### ① 児童

学習、生活指導、学校行事については、ほぼ8割以上の肯定的な評価であり、特段の課題はないと思われる。中でも、

1-(1)「先生は、課題(めあて)について、自分で考えたり、友達と考えたりする時間を授業の中で取っている。」(A+B 93.7%)

1-(3)「授業では、考えたことを話し合ったり発表し合ったりする機会がある。」(A+B 95.8%)

5-(1)「先生たちは、ていねいに指導してくれる。」(A+B 92.6%)

は9割以上の肯定的評価であり、昨年に引き続き高い評価である。

なお、

4-(3)「区立中学校に関する情報が提供されている。」(A+B 34.0 → 45.3%)

7-(2)「私は、相手や場に応じた言葉遣いをしている。」(A+B 48.9 → 71.2%)

については肯定的評価が前年から高く変化(10%以上)し、昨年の課題が改善されることとなったと考えられる。

また、

6-(3)「私は、家庭で宿題やe-ラーニングでの学習をしている。」(A+B 70.2 → 53.7%)

については肯定的評価が大きく低く(-16.5)なった。

一方、学校生活に否定的な評価(C:あまり思わない、D:思わない)についても

5-(2)「先生たちに相談できる。」(C+D 17.9%)

6-(1)「学校生活は楽しい。」(C+D 17.9%)

6-(2)「学校が好き。」(C+D 16.8%)

と一定数いる。学校が楽しく、好きだと答えた子どもたちも多いが、子どもたち一人ひとりが安心して過ごせる工夫を、各学年、各クラスに合った形で行っていただきたい。相談しやすい雰囲気づくりなど、子どもたちへの接し方・指導の仕方に工夫の余地を残すと考えられる。

##### ② 保護者

肯定的な評価の割合が9割を超えた項目は、

3-(1)「学校行事は、子どもにとって楽しい。」(A+B 94.2%)

3-(2)「学校行事は、子どもにとって達成感がある。」(A+B 91.4%)

なお、否定的な評価(C:あまり思わない、D:思わない)としては

6-(2)「子どもは、家庭で自主的に学習をしている。」(C+D 38.7%)

12-(4)「お子さんは、主体的に学習していると感じている。」(C+D 38.3%)

が昨年に引き続き割合として高いため、学校が具体的な学習時間や内容を保護者に伝えるなど、学校と家庭が協働して児童の学習を見守る体制が望まれる。

また(E:分からない)の評価の占める割合が高い項目として、

4-(2)「本校は、子どもの生き方や将来のことについて考える授業をしている。」(E 32.5%)

6-(3)「本校は、近隣の(幼)・小・中学校で構成する「ねづやま夢の学び舎」による幼稚園・小学校・中学校の連携や交流活動が行われている。」(E 29.6%)

10-(3)「本校は、地域に情報を提供している。」(E 32.9%)

があり、啓発を行い周知徹底していくことが望まれる。

### ③ 地域

30項目中項目25項目が肯定的評価の割合が8割以上と学校の日々の努力のたまものとする。

一方、

4-(2)「地域の意見に対して、学校はていねいに説明・対応している。」(E 21.7%)

5-(2)「学校協議会や合同学校協議会が役割を果たしている。」(E 26.1%)

5-(3)「学校運営委員会は活動を周知し、役割を果たしている。」(E 26.1%)

7-(3)「本校の子どもたちは、地域の方とのふれあい・交流を楽しんでいる。」(E 21.7%)

については(E:分からない)の評価の占める割合が高く、活動の様子を知らせる対策を考える必要がある。

保護者の同傾向設問と同じく(E 分からない)の評価が20%を越えており、地域・保護者ともに高い評価とは言えない。学校として、広報活動・情報提供の工夫・改善を更に進めること等を通して、協議会・委員会の方針・活動を周知させることを望む。

## 3. 学校への提言

### (1) 新たな学びへの取り組み

協働的な学びの評価は高いが、主体的な学びの評価が低いので、子どもたちが学校でも家庭でも主体的に学ぶことをより推進して欲しい。また、キャリア教育についての項目は保護者の評価が高くはないので、キャリア教育をより推進するために、各教科・領域で取り組むとともに、学校は家庭、地域が一体になって活動を創造していきけるようリードして欲しい。

### (2) より正確な状況把握

昨年度の学校関係者評価アンケートは回答方式が紙から電子入力に変わったことにより、回答率が保護者、地域とも前年度の半数以下になってしまっていたが、本年度はスマホアプリ「すぐーる」から複数回、回答依頼を行ったことで回答率が大幅にアップした。次年度もさらに回収率が高まることを期待する。

## 4. 総合所見

自己評価報告書及び学校関係者評価等によると、篠原校長の下、学校は様々な活動に取り組み、一定の成果を挙げてきたといえる。山積する様々な教育課題、新たな課題に対して、次年度への改善項目を共有して、学校、保護者、地域の方々と協働し、課題に取り組んでいただき、地域運営学校としての機能を最大限に生かし、篠原校長のもと今後の更なる発展を期待する。

令和5年度 世田谷区立代田小学校 学校関係者評価委員会

委員長:黒田高史(保護者) 委員:後藤彰夫(地域) 委員:川村きく子(卒業生)

委員:吉松晃美(元保護者) 委員:大山夏希(保護者)